

目次	・地域医療構想と診療・介護報酬改定を見据えて ……1	・バスキュラーアクセスについて ……5
	・多発性のう胞腎について ……2-3	・認知症予防体操 ……6
	・退職者挨拶 ……4	・新入職員紹介、編集後記 ……7
		・外来診療表 ……8

## 地域医療構想と診療・介護報酬改定を見据えて

事業部長 永田 四郎



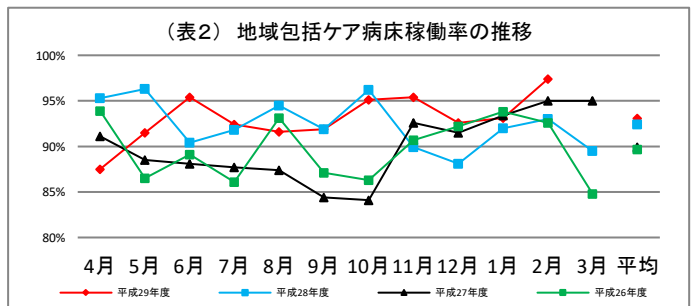
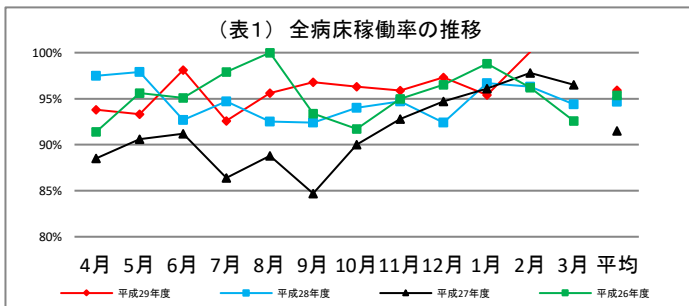
気象庁の発表によりますと、昨年12月以降は全国的に平年より気温の低い日が多かったそうです。寒気(寒気団)の流入のピーク時に大雪となった要因の一つとして、ラニーニャ現象が影響したと発表されています。しかし、全国的に気温は平年を上回った冬となるそうです。近年は季節を問わないゲリラ豪雨や冬季のゲリラ豪雪など、地球規模での天候不順による様々な災害が発生しています。一昨年、我々は熊本地震を経験しました。医療機関としては、地震で学び得た危機管理及びBCP(事業継続計画)の重要性を再確認し、予期せぬ災害に迅速に対応ができるように、日頃からの心掛けと訓練を重ねることが最も大事かと考えます。

さて、政府は昨年12月22日に平成30年度の予算案を閣議決定しました。それに伴い診療報酬本体は+0.55%、介護報酬は+0.54%と決まりました。そして去る2月7日、中医協総会において平成30年度診療報酬改訂の内容が了承され、厚生労働大臣に答申されました。一方、社会保障審議会・介護給付費分科会においては介護報酬改定案が了承され、1月26日に厚生労働大臣へ答申されています。今年度は診療・介護報酬の同時改定年であり、過日開催された四病院団体協議会賀詞交歓会において加藤厚労相は、2025年問題に向けて多様なニーズに対応するため変化に耐えうる医療体制の構築が必要であると、述べられています。また、地域医療構想については、転換する病床数など具体的な対応を速やかに策定するため、2年間で集中的に検討して欲しい旨の考えを示されています。

本県では、今年度より構想区域ごとに地域医療構想調整会議が設置され、当院も政策医療を担う中心的な医療機関として認められたところです。それに伴い、当菊池構想区域(対象:9医療機関)においては平成30年度中を目処に、全対象医療機関に係る協議が実施される予定となっています。今後は、地域の医療ニーズに応じた医療機能別の病床を確保し、来る2025年問題や2040年に向けて患者さんの状態に即した医療提供体制の構築を進めなければなりません。故に、このような将来を見据えた課題をわたくし共はしっかりと把握し、地域包括ケアシステムに資する質の高い医療と看護を地域住民の方々へ提供して参りたいと存じます。

以下に示しました表は、当院の平成26年度から29年度2月までの各病床の稼働率の変化を表しています。全病床稼働率(124床)におきましては3月実績を残してはいますが、28年度と同様に高稼働率を示している状況です(表1)。また、地域包括ケア病床(27床)の稼働率も前年度に引続き、効率的に運用されている状況です(表2)。お示しました高い数値の報告ができますことは、偏に当院との病・病及び病・診連携を通して関係医療機関の方々のご理解とご協力の賜物と存じます。そして、当院の医師及び看護師をはじめとする各職員の日々の努力による結果でもあります。

これから年度末を控え職場は慌ただしさを増しますが、皆様方のご健康と各関係機関様のご繁栄をご祈念申し上げます。



# 常染色体優性 多発性のう胞腎について



熊本大学医学部附属病院 腎臓内科 特任准教授 井上 秀樹

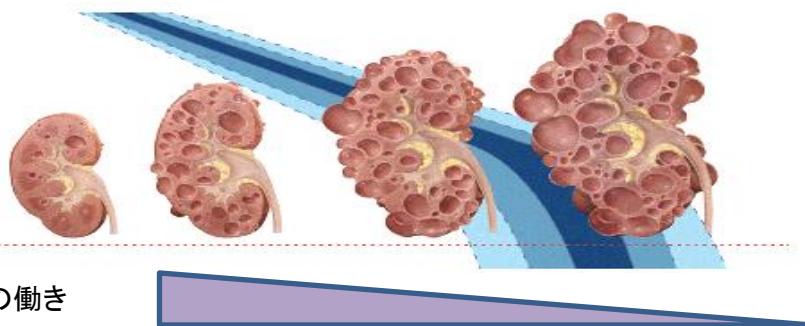
## 腎臓にのう胞が多数できる病気です

突然ですが、常染色体優性多発性のう胞腎(ADPKD)という病気をご存知ですか？腎臓にのう胞(液体の詰まった袋)が多数できて、徐々に大きくなり、腎臓の働きが悪くなってしま病気です。

遺伝性の病気で、子供に遺伝する確率は50%です。

この病気の人のうち半数は、70歳までに人工透析が必要になるといわれています。

30 ~ 40歳代まではほとんど症状があらわれないことが多いです。しかし、のう胞が大きくなるにつれて、お腹のまわりが大きくなることがあります。また、痛みや血尿、結石、感染症などがあらわれること



有病率

**11.7** 人  
(人口10万人対)

発症頻度

**4,033** 人  
に1人

推計患者数

**31,000** 人  
(日本)

透析導入患者の

**3%**  
(第4位)

## 検査・診断は比較的簡単です

人間ドックや健康診断で初めてわかることがあります。

いくつかの病気を合併することがありますが、高血圧になりやすいといわれています。

家族に同じ病気の人がいるかどうか、そして画像検査により診断できます。画像検査では超音波検査やCT、MRIなどをおこないます。

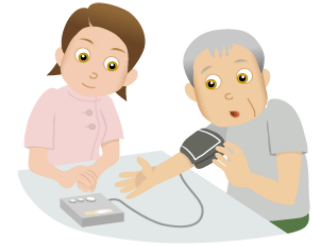


## 多発性のう胞腎の治療について

現在、ADPKDの治療において、根治を目指した治療法はありません。そのため、ADPKDの進行を遅らせるために、下記のような治療がおこなわれています。

### <降圧療法>

腎臓の働きが悪くなるのをふせぐには、血圧を適正に保つことが重要です。まずは生活習慣の改善をおこないますが、それでも血圧が下がらないようであれば降圧薬の服用が勧められます。



### <飲水食事>

積極的な飲水により、のう胞の形成・進行をおさえることが期待されています。1日2.5リットル～4リットルの飲水が勧められます。また、血圧管理や栄養管理のために塩分制限、適正なカロリー摂取をおこないます。

## 進行を遅らせる新しい治療薬が使えます

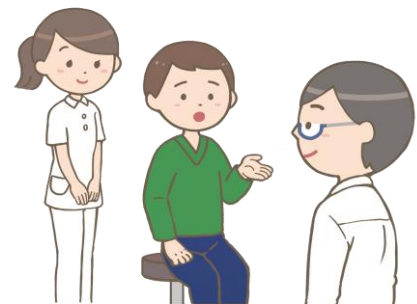
新しい治療法として、バソプレシン受容体拮抗薬である「トルバプタン(一般名)」というお薬が使えるようになりました。これは、バソプレシンという物質がサイクリックAMPという物質を介してのう胞を増やして大きくすることがわかったため、その作用をおさえるお薬「トルバプタン」が病気の進行をおさえ、腎臓の働きが悪くなるのを遅らせることが確かめられました。

日本でも、2014年3月より保険診療のもとでADPKDに対して「トルバプタン」を処方することができるようになりました。ただし、その適応は「進行性の」成人ADPKDに限られています。また尿が大量に増えるため、のどが渇くなど脱水症状をきたしやすくなり、十分な水分補給が必要になります。そのため、このお薬についてはのう胞腎について十分な知識をもった医師とよく相談することが奨められています。

## 医療費助成の申請ができるようになりました

この病気は、2015年1月1日から難病に指定され、医療費助成を受けることができるようになりました。

ただし、認定されるにはいくつかの条件があるため、検査が必要です。まずは、診察を受けることをお勧めします。



まずはかかりつけの医師へご相談ください。  
専門医がいる当院(腎臓内科)へ直接ご相談いただいてもかまいません。

# 退職者挨拶



## 内科部長 兼 糖尿病センター長 田口 哲也

この度私事ながら当院を退職させて頂くこととなりました。H25年4月に糖尿病センター設立の責任者を拝命して以来、院内スタッフを編成し、フットケア外来の開設、教育入院の充実、世界糖尿病デーイベントの開催、糖尿病学会認定教育施設の取得、療養にまつわるニュースレターの定期配布、そして熊本地域糖尿病療養指導士(CDE-Kumamoto)の講義・試験開催、等々を行ってまいりました。いずれも優秀なスタッフのサポートに恵まれたことが、成功できた鍵であったと、スタッフにこの場を借りて深謝致します。

一方で、成功と同じ位の数の未達成な案件もあり、組織で動くことの難しさ、自らの発信力の無さなどを痛感した5年間でもありました。そしてこの経験が、50歳を目前にして、自分が今後展開すべき医療を再考し、新たな一步を踏み出すきっかけとなりました。これからも当院職員、および会員の先生方達と、様々な形で熊本の医療界で交流できたら幸いです。5年間ありがとうございました。



## 腎臓内科医長 植田 美紀

平成27年4月から3年間勤務させて頂きました菊池郡市医師会立病院を、3月をもちまして退職することとなりました。この間、地域の医療機関を含め多くの方々から御支援、御協力頂きましたことを心より感謝申し上げます。

私自身は熊本市出身ですが、菊池は母方の郷ということもあり、祖父母がお世話になった菊池地域の医療に微力ではありましたが関わることができ大変嬉しく感じております。3年間たくさんの患者様との出会いがあり、病状によっては悩むことも多々ありましたが、御家族を含め菊池地域の方々の温かいお人柄に支えられながら診療のあたることができました。こちらで学んだこと、経験のすべてを今後活かしていきたいと思っております。

3年間お世話になり本当に有り難うございました。



## 腎臓内科 入江 亮輔

この度、本年3月末で菊池郡市医師会立病院を退職し、4月から済生会熊本病院へ異動することになりました。

昨年4月当院へ赴任し、1年間という短い期間でしたが、お世話になりました。今考えるとあっという間の1年間でした。医師として4年目、腎臓内科医として2年目と未熟な時期に赴任し、知識面を含め不十分な点が多々あったと思いますが、先生方はじめ病院全体のスタッフの方々にはアットホームな雰囲気でお優しくご指導頂き、貴重な経験となりました。またこの1年間は透析療法を含めた腎疾患の診療を数多く経験しましたが、地域の中核病院としてcommon diseaseの診療も非常に多く携わることができました。

最後に改めまして1年間大変お世話になりました。魅力の多い菊池を離れるのは悲しいですが、今後も熊本県で医療を続けますので、お会いすることもあると思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



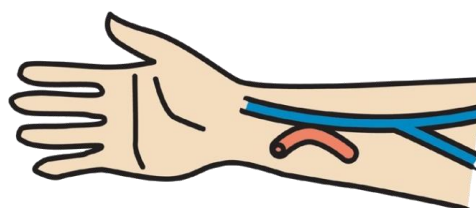
# バスキュラー アクセスについて



## バスキュラーアクセスとは

バスキュラーアクセスとは透析を行うために必要な血管アクセスのことです。透析は血液を血管外に取り出して、体にたまった老廃物や水分を取り除く治療です。そこで血液をとりだすためのバスキュラーアクセスが不可欠となり、患者さまによりよい透析治療を続けて頂くためにはバスキュラーアクセスの管理が必要になります。

## バスキュラーアクセスの種類



バスキュラーアクセスには様々な種類のものがあります。

- ・動脈と静脈をつないだもの（自己血管内シャント）
- ・人工物の血管を埋め込むんだもの（人工血管内シャント）
- ・筒状の管をいれるもの（長期留置カテーテル）

大きく分類すると3種類のバスキュラーアクセスがあります。しかし、使用していくうちに狭窄、閉塞、感染などのトラブルが起こることもありますので気をつけなければなりません。

## バスキュラーアクセス管理

バスキュラーアクセス管理の第一に欠かせない事は血管を見る、聴く、触ることです。

当院では臨床工学技士が定期的にはエコー検査を行い、バスキュラーアクセス管理をしています。エコー検査ではバスキュラーアクセスの血流状態の把握や狭窄病変の特定が可能になり、トラブルの防止や減少につなげています。

また、エコーガイド下での穿刺にも取り組んでいます。適切な穿刺部位や穿刺針が血管内に正しく留置されているかの確認ができます。



現在臨床工学技士は12名在籍しています。

透析室や病棟での機器管理、ペースメーカー、内視鏡など幅広く業務に携わっています。今後も患者さまに安心安全を提供するために努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

# 認知症予防体操



## 【目的・目標】

認知症予防には大脳の前頭前野(意欲、思考、注意、コミュニケーションなどの機能を司る)を活性化させることが大切です。

## 【注意点】

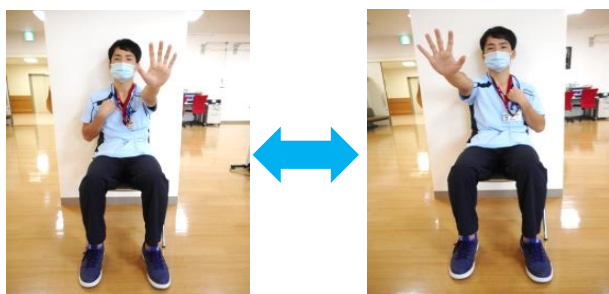
体調に合わせて無理のない範囲で行い、気持ち的に少し疲れたなぐらいの疲労度が丁度いいです。無理をしてストレスを抱えない程度に行ってください。

## 【認知症予防に対する効果】

筋肉の働きを促し、全身の血流が良くなることで脳(前頭前野)の活性化を図り、認知症予防に効果的であると言われています。今回は家でも出来る簡単な認知症予防体操を紹介します。

### グーパー体操

椅子に座った状態から掌を前に突き出します。そして残った方の手は胸元にて握りこぶしを作ります。この動きを左右交互にそれぞれ10~20回繰り返します。



※手を伸ばす際には、肘に痛みがない程度で行う様にして下さい。指はしっかりと伸ばす様に心がけて下さい。

### スリスリ・トントン体操

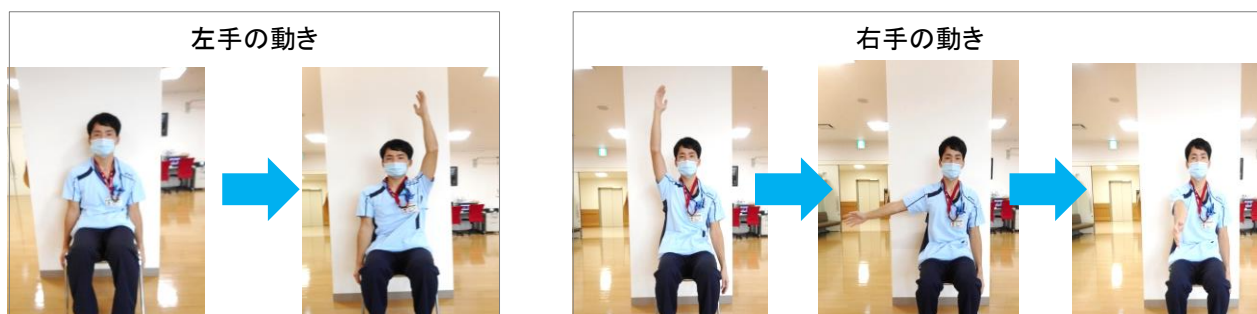
椅子に座った状態で、右手で握りこぶしを作り右側の太ももを叩きます。それを続けながら左手でパーを作り、太ももを前後に擦ります。これを左右反対に10~20回それぞれ繰り返します。



※太腿を叩く時は軽く行う様にして下さい。肘を曲げる時に指をグーにして下さい。

### 左右バラバラ体操

左手は上げる→下げるを繰り返し、右手は三角形を描くように上げる→横に下げる→正面を繰り返します。これを左右反対に10~20回それぞれ繰り返します。



※周りに物がない事を確認して動作を行う様にして下さい。肩に痛みがない範囲で行ってください。伸ばす所は、しっかりと伸ばす様にして下さい。

Introduction of new staff

## 新 入 職 員 紹 介

平成30年1月～3月



看護師

中村 真里

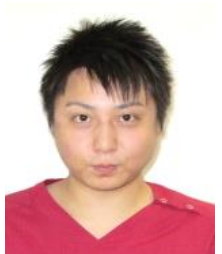
入退院が多い病棟ですが、他のスタッフの協力を得て、早く慣れる様に頑張ろうと思います。



理学療法士

梅本 雄次

覚える事が多いですが、患者様、ご家族が安心してリハビリを受けて頂けるよう頑張りたいと思います。よろしくお祈りします。



臨床工学技士

永里 光

少しでも早く仕事を習得し、病院に貢献できるように頑張ります。



ケアワーカー

高宮 有香

患者様がよりよく過ごせるように笑顔で頑張ります。よろしくお祈りします。

## 編集後記



今年は記録的な大寒波に見舞われ、寒い日が続いておりましたが、平昌オリンピックの熱気で溢れていました。少しずつ春が訪れを感じることができ、温かくなってきましたが、まだまだインフルエンザには注意が必要です。こまめな手洗い・うがいを心掛け、マスクを着用するなどの予防策を行い、健やかに春を迎えましょう。



## 菊池都市医師会立病院 外来診療表

	午前/午後		月	火	水	木	金	土
総合内科	午前		松田 浩治 石田 隼一	沖 尚史	松田 浩治	石田 隼一 (第1・第3・第5)	沖 尚史	松田 浩治
糖尿病センター 代謝内分泌内科	午前		山田 沙梨恵 (熊大糖尿病代謝内科) 古賀 荒太郎	豊永 哲至 田口 哲也	田口 哲也	豊永 哲至 信岡 謙太郎 (菊池中央病院)	古賀 荒太郎	田口 哲也
循環器内科	午前	予約	石坂 浩	古賀 敏	石坂 浩	熊大 循環器内科		古賀 敏
		新患	古賀 敏	石坂 浩	古賀 敏	熊大 循環器内科	石坂 浩	
腎臓内科	午前					井上 秀樹 (熊大 腎臓内科)	緒方 智博	
消化器内科	午前					済生会熊本病院 (第2・第4)	熊大 消化器外科	
神経内科	午前				井上 泰輝 (熊大 神経内科)			
整形外科	午前						久永 哲 (熊大 整形外科)	
放射線科	午前/午後		本田 伸	本田 伸	本田 伸	本田 伸 上谷 浩之 (熊大 放射線科)	本田 伸	上谷 浩之 (熊大 放射線科)

当院は「紹介型の病院」です。受診に際しましては、「かかりつけ医」の「紹介状」を原則必要とします。  
ただし、救急の場合はその限りではありません。検査は予約制となります。

外来受付時間 8:00 ~ 11:30

救急患者の方につきましては、上記以外の時間にも対応しています。

## 【病院理念】

かかりつけ医の先生方と連携して、地域の皆さまに信頼され、愛される病院を目指します。

## 【基本方針】

- ・ チーム医療と地域連携に努めます
- ・ より良い医療の提供を目指し、研修・研鑽に努めます
- ・ 自己満足に陥ることなく、業務改善に努めます
- ・ 病院の健全な運営を目指します



一般社団法人 菊池都市医師会

菊池都市医師会立病院

〒861-1306 熊本県菊池市大琳寺75番地3

TEL:0968-25-2191 FAX:0968-24-5762 <http://www.kikuchi-hosp.com/>

発行責任者：病院長 豊永 哲至

